

# 総務文教委員会会議録

平成25年1月17日

10時00分

開会

11時19分

閉会

網走市議会

午前10時00分 開会

### ○小田部委員長

ただいまから総務文教委員会を開会いたします。

本日の委員会でありますけれども、直近理事者のほうから本日の説明課題であります「日体大北海高等学校」の誘致について説明をしたいと、こういう申し入れが委員長のもとにございました。

諸般を考えてきょうの開会が望ましいと、こういうふうな判断をし、口頭で委員の皆様方に急遽お知らせ、要請をいたしたところ、所用がある中差しかえた委員も具体的に承知しておりますし、皆さん全員の御参加をいただきましたことに、心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。

それでは早速、本日の説明課題に入りますが、仮称「日体大北海高等学校」の誘致について岩永企画調整課長の説明から入りたいと思います。

課長。

### ○岩永企画調整課長

それでは、仮称「日体大北海高等学校」の誘致について御説明を申し上げます。

資料1号をごらんください。

学校法人日本体育大学では、昨年12月21日に理事会評議委員会を開催し、特別支援学校高等部を本市に創設することについて検討を開始するという決定がされました。

スポーツ基本法では、障がい者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう障がいの種類や程度に応じて必要な備えをしつつ推進することを国、地方、自治体の責務と定めておりまして、日体大ではこの理念を実現できる候補地を全国に求めておりました。

理事会の決定は、本市がこれまで新設校誘致に向けて御説明をしましてまいりましたパラリンピック選手の合宿実績に加え、自然環境やスポーツ施設、医療などの環境、そして首都圏からの交通アクセスの利便性など、地域としての優位性について御理解、評価をいただけたものと考えております。

スポーツ教育を中心とする私立の特別支援学校高等部は北海道はもとより、全国でも初の創設となりますので、スポーツ振興と教育、障がい者の分野での新たな1ページが開かれるものと期待しておりますが、今後、日体大では初期投資額や

中長期的な収支見通し、教職員の人材確保、生徒の募集や就職先の確保などの検討を行うとお聞きしております。

2月あるいは3月に開催される予定の理事会で正式決定された際には、市としても新年度に設立準備室を立ち上げ、開校に向けた支援と準備に取り組んでまいります。

新設構想につきましては、体育科に特化した男子校ということでございます。教育課程は自閉症、発達障がいを中心とした知的障がい者の特別支援学校であるということと、職業訓練とスポーツを取り入れたカリキュラムを編成するという構想でございます。

募集定員につきましては1学年40名程度で、学校完成3年後には120名の定員になるということの構想でございます。

予定教室数につきましては、普通教室が9ということになります。

教職員数ですが、教職員30名程度に加えて、寄宿舎の指導員を25名程度想定しております。部活動につきましては、記載のとおり駅伝、自転車、ボート、カヌー、アーチェリー、フェンシング、レスリングの6種目を予定しているというふうにお聞きしております。

原則生徒は寄宿舎にて受け入れるということで構想されてお聞きしております。

以上でございます。

### ○小田部委員長

ただいま、課長から説明をいただきましたが、本件について皆さんの質疑をお願いしたいと思います。

### ○飯田委員

まだ検討ということで、新年交礼会のときに市長が言っていたのが、具体的に委員会で初めて出たのですけれども、準備室を立ち上げると、知る範囲でいいのですけれども、オープンというのですか、開校が本年度中に準備して、多分、平成27年、2年間ありますけれども、その辺の日程と恐らく学校法人でやった場合、認可を受ける場合にはさまざまな許可をクリアしなければならない条件があると思います。

そこでいくと、寄宿舎と全寮制というのですか、聞くところ全寮制なのでさまざまな方法はあると思うのですけれども、申請するときにはもうことし中か何かにある程度、申請しないと許可な

らないようなことがあるのですけれども、その辺を含めての校舎だとか、寮だとか、どの程度お聞きしていますか。

#### ○岩永企画調整課長

まず開校までの日程でございますが、平成27年4月の開校を予定したいというのが日体大の考え方でございます。

それまでに知事の認可を受けるということになりますが、ことしの9月末までに設置認可計画書を提出する必要があります。

これにつきましては、この段階で土地や施設が完成していなくても構わないという、図面だけで構わないというレベルのものでございます。その後、来年の9月末までには設置にかかわる申請書を提出することになりますが、この段階では必要な用地・施設等については整備を終えて申請をするということになるというふうにお聞きしております。

北海道の窓口は法人局学事課でございます。

#### ○飯田委員

その程度だということと、あとはそれであるならば準備室のほうで、それも含めた協議をするということですね、施設なりそういうことで。

あともう一つ、これは日体大はさまざまな附属高校は持っているのですけれども、これでいくと学校法人になりますと、附属高校という位置づけなのか、それとも単独というのですか、唯一。単独になると学校法人、法人は別になるというは、ちょっとその辺はいかがでしょうか。

#### ○岩永企画調整課長

ただいま飯田委員のほうから付属校というお話がありましたが、日体大では付属校は持っていないというのが考え方でございまして、日体荏原高校ですとか、日体桜華高等学校、柏日体高校等がございますが、それはそれぞれ独立した教育機関であるというのが日体大の考え方というふうにお聞きしております。

#### ○飯田委員

それであるならば同じようなことですね。この中で部活動とあるのですけれども、このちょっとこら辺がわからないのですけれども、これでいくと部活動になりますと高校ですから高体連の大会等に参加するというようなことなのですから、ちょっとこの辺というのは準備室、今の企画調整課ではどのような知らせ方というのですか、

これでいきますとボートだとか、自転車だとか、アーチェリーだとかフェンシングだとかあるのですけれども、どちらかというとなマイナーというか、人が余りやっていないような種目があるのですけれども、やはり特別そういうようなことも考えているということなんでしょうか。

#### ○岩永企画調整課長

この日体大のほうにお聞きしている内容としましては、ここに記載している種目、基本的には個人種目であるということで、対象とする子供たちがどちらかというとな協調性などについて発達にアンバランスがあるということなので、そういう子供たちでも取り組みやすい競技を選択したいということが一つでございます。

それと、大会等、高体連等に出る場合については、最終的にはインターハイを目指した指導をしていきたいということでございますので、普通学校の生徒と同様に高体連、インターハイというような形で進めていきたいというふうにお聞きしております。

#### ○飯田委員

ちょっとその辺はまだまだ正式決定されてからの課題なのかなと思っておりますけれども、ちょっと初めあれしたのは障がい者スポーツということで、パラリンピックなり網走も合宿で受け入れてきたのですけれども、それを見ますと知的障がいの子なので、それで職業訓練とスポーツを取り入れたカリキュラム編成になりますと、特に教職員の非常に幅広いかなりな知識なりを持った方々が来られるのではないかなと思うのですけれども、その辺を含めての私は国内唯一の高等学校というふうには認識しているのですけれども、その辺はいかがですか。

#### ○岩永企画調整課長

教職員の確保ということだというふうには考えておりますが、日体大としては全国各地にOBの学生が教職員の資格を持って活躍をされているということで、同窓会ルートを使った教職員の確保をしたいというのが一つでございます。

さらに、事務系職員につきましてはできるだけ地元から雇用といいますか、採用したいというのが日体大の考えというふうにお聞きしております。

日体大のOBにつきましては全国の特別支援学校にも教職員として活躍をされている方が多いと

お聞きしておりますし、網走養護学校の校長先生も日体大のOBというふうにお聞きしております。

**○小田部委員長**

他に。

**○井戸委員**

この誘致に関しまして東京農大が大変いい例で、網走にはなくてはならない存在になっていて、網走のこの経済の大きな一翼を担っていただいているのですけれども、こういった部分、やはりこの誘致を何としても成功させていただきたいという思いが、まず私の中で一つ。傾向として観光という部分でも非常に意味は大きいというふうに考えます。

トレーニングフィールドやドームの活用にも大きくつながっていくのではないかなという、大きな希望も持っていますし、その中ではまず市民のやはり理解と協力がまず重要だというふうに思うのです。

そういった中で、例えば期成会とか、そういったことを立ち上げるような準備というのは、考えはあるのかちょっとお聞きしたいと思います。

**○岩永企画調整課長**

ただいま井戸委員のほうから御指摘のありました東京農大の存在につきましては、大変、大きいなというふうにお聞きしておりますし、実は日体大が網走にというのも、農大の成功例を大変、意識されております。

首都圏の方のイメージとしては、あんな地域にという、なぜ東京農大がその1,700名もの学生を集めているのかということとを理事会の中で説明をさせていただいて、網走に決定をした一つの要因になっているというふうにお聞きしておりますし、農大誘致の際には御指摘のとおり、市民の多大な協力を得たというふうに認識しておりますので、現在、協賛会をつくるのかどうかまでは議論を進めておりませんが、市内にいらっしゃる日体大OBの方も含めて御相談をさせていただきたいなというふうにお聞きしております。

**○井戸委員**

実はこの話も私もちょっと知り合いの日体大のOBの方からこんな話があるようなのだけれどもどうなのだというふうにお聞きされた部分もありまして、大変、何か注目されている部分なのかなというふうにお聞きしておりますので、ぜひともこの相手、

そして取り巻きのある話なので相手側の日体大側の考え方を大切にさせていただいて、タイミングや呼吸が重要になってくると思いますので、ぜひとも慎重に進めていただきたいと思います。

**○小田部委員長**

他に。

**○山田委員**

井戸委員、そして飯田委員からも出ておりましたけれども、当初御説明あったように網走の農大の話も改めて今、お聞きしましたがパラリンピック、障がいもちょっと違う部分もありますけれども、そこもやはり応援体制の実績とか、自然環境や医療の関係、またスポーツ宣言をしているということもトータルの面で理事会、評議委員会の中で網走市が適当な市として上げられたと大変光栄に私も思いますし、井戸委員からもあったように相手があることですから、どうだ、こうだ、今、詳しいことは聞けませんが、ぜひ農大のときもそうだったというお話があったように、また網走市民が挙げてここは優しく受け入れるという考え方を全市的に持って、ぜひ誘致をしていただきたいと思いますというふうに思いますので、関係する準備室の皆さんは大変でしょうけれども、ぜひそういう思いをしっかりと受けとめていただいて、最大限、市としても応援できることはして、ぜひ誘致の方向で頑張っていただきたいと、このような思いで要望になりますけれども私のほうからの意見とさせていただきます。

**○金兵委員**

今、皆さんからありましたので、慎重に進めていただきたいなというのはあります。いいことだとはというふうに思いますけれども、今度はとても難しい問題がこれから出てくるように僕も感じていますので、今は慎重に進めていただくことを要望したいと思います。

**○高橋副委員長**

私はこういった知的障がいのある生徒が集まってくるといったことから、今、こういった運動部、特に運動部に関してですけれども体罰ですとか、それから古くは戸塚ヨットスクールでありますとか、それからしごきですとか、そういった問題がありましたけれども、そういったこともこれからなくなっていくような、そういった模範になるような学校になっていただきたいと思います、そんなふうにお聞きいたします。

○小田部委員長

他に御発言ありませんか。

(「なし」の声あり)

○小田部委員長

ただいま、全委員から日体大北海高等学校の誘致について、こういうふうなことについての説明に対して御意見をいただいたところですが、要約すると全員ともに相手があると、さらには周囲の道内にもたくさん自治体もありますし、県外も当然のごとく、そういったところに対して十分な配慮をしながら、適切適宜に誘致に向けた準備のほうを持って、慎重に対応してくれと、こういうことが総務文教委員会、委員全員の意向だと、こういうふうなことを委員長として申し上げて、執行部の実現に向けた努力に期待をいたしたいと、このように思います。

委員の皆さん、よろしいですね。

(「なし」の声あり)

○小田部委員長

理事者のほう、何かありますか。

(「ありません」の声あり)

○小田部委員長

それでは、きょうの急遽の委員会でありますけれども、この程度で閉じてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○小田部委員長

それでは、以上をもって、総務文教委員会を終了とさせていただきます。

大変、御苦労さまでした。

午前10時19分 閉会